

記者発表（資料配付）				
月／日	担当課（室）名	電 話	発表者（担当課長名）	その他 配布先
9／13	(公財) 兵庫県まちづくり 技術センター	078-367-1224	理事長 寺 谷 毅 (企画部長 高 瀬 徹)	

## 「令和4年度 防災特別講演会」を開催します ～ 豪雨災害のリアルから学ぶ次の備えと心構え ～

公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターでは、毎年9月の防災月間に合わせて、県及び市町職員、県OB職員（兵庫県防災エキスパート（※1））を対象に「防災特別講演会」を開催し、防災意識の啓発を図っています。

今年度は、一昨年、球磨川流域豪雨災害を経験された熊本県人吉市 市長 松岡隼人氏、テレビ等でご活躍の気象予報士 南利幸氏にご講演いただきます。

### 記

#### 1 日 時

令和4年9月20日（火） 13時30分～16時30分

#### 2 場 所

神戸市産業振興センター 3階 ハーバーホール

#### 3 講演名

令和4年度 防災特別講演会（防災エキスパート研修会）

#### 4 講演者

『頻発する自然災害への備えについて』

熊本県人吉市 市長 松岡 隼人 氏

『防災気象情報の見方や伝え方について』

気象予報士 南 利幸 氏

#### 5 参加者

約260名 ※) 参加募集は終了しています

#### 6 主催者及び問い合わせ先

##### (1) 主催者

公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター、一白会（※2）、兵庫さんすい会（※3）

##### (2) 問い合わせ先

公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター

〒650-0023 兵庫県神戸市中央区栄町通6丁目1-21

担当) 企画部 企画調整課 参事 長谷川 一馬 (078-367-1224)

※当日の取材を希望される場合は、9月16日（金）12時までに〔長谷川宛て〕連絡願います。

(参 考)

※1) 兵庫県防災エキスパートとは

阪神・淡路大震災の教訓から災害復旧支援活動を迅速、円滑に進めるため、平成10年よりセンターが事務局となり、県・市町等の土木職OBを登録し、退職者の豊富な経験を活かし社会に貢献する次の支援活動等は無報酬で行う人をいいます。(令和4年7月現在156名)

- ・大規模災害発生時に、自発的または施設管理者の要請により行う公共土木施設の被災情報の収集や災害対策の支援活動
- ・防災、減災のための地域活動

〈近年の実績〉

平成21年台風9号災害	佐用町を中心に12人、延べ51人
平成26年丹波豪雨災害	丹波市に4人、延べ6人
平成30年7月豪雨災害	宍粟市に4人、延べ8人
平成30年9月6日からの豪雨	猪名川町に2人                      など

※2) 一白会とは

建設会社に所属する兵庫県土木職OBで構成

※3) 兵庫さんすい会とは

測量、設計等の業務に従事する兵庫県土木職OBで構成

# 豪雨災害のリアルから学ぶ次の備えと心構え

令和2年7月 球磨川流域豪雨災害を経験された「熊本県人吉市 市長 松岡 隼人 氏」と  
テレビでご活躍の「気象予報士 南 利幸 氏」による防災特別講演会を開催します。

令和4年度

防災特別講演会

9月20日(火)

(13:30~16:30)

会場：神戸市産業振興センター 3F ハーバーホール

13:30 開 会

13:45 I. 頻発する自然災害への備えについて

熊本県人吉市 市長 松岡 隼人

15:00 II. 防災気象情報の見方や伝え方について

南気象予報士事務所 代表取締役 南 利幸

16:10 閉 会



公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター

企画部 企画調整課 担当：長谷川、砂田 TEL：078-367-1224

<https://www.hyogo-ctc.or.jp>



写真：人吉市街地（被災前）

## I. 頻発する自然災害への備えについて

熊本県人吉市 市長 松岡 隼人

- ・頻発する自然災害に備え、各人が自分の命や住まいなどに対するリスクを正しく理解し、どのタイミングで命を守る行動を起こせば良いのかを知ることが重要です。
- ・講演では、令和2年7月球磨川流域豪雨災害がどのようにして起きたのかを検証するとともに、災害で経験したことから、安心・安全の向上のために必要な次の備えと心構えについて学びます。

### 《講演者プロフィール》

熊本大学教育学部卒業  
H19年 人吉市議会議員（2期）  
H27年 人吉市長（現在2期目）  
45歳（S52）



## II. 防災気象情報の見方や伝え方について

株式会社 南気象予報士事務所 代表取締役 南 利幸

- ・温暖化の影響で、兵庫県内の気温も高くなり非常に激しい雨も増えています。今夏も東北や北陸などで土砂災害や川の氾濫などの被害が発生しました。
- ・気候の状態は大きく変化してしまい、さらに想定外の激しい現象が増えると考えられています。
- ・このような時代の中で、地域の安全や自らの身を守るためには、気象庁などから発表される防災気象情報を熟知しておくことが必要です。
- ・防災気象情報が複雑化しているため分かりにくい面はありますが、防災気象情報を伝える側として、防災気象情報の見方や伝え方について学びます。

### 《講演者プロフィール》

広島大学大学院 生物圏科学研究科修了  
気象予報士・技術士（応用理学）・防災士  
■現在、出演中  
NHK総合「おはよう日本」（土日祝）  
NHK神戸「Live Loveひょうご」（毎週水）  
NHK大阪「おはよう関西」（毎週金）  
気象庁「防災気象情報の伝え方」検討会 委員  
57歳（S40）

